

火山都市国際会議は、研究者にとっては学問探究の場であると同時に社交の場でもあります。参加者が支払う登録費には、パーティーの参加費用も含まれており、めったに会うことのない海外の研究者や開催地の皆さんと交流を深めます。今回は、火山都市国際会議を彩る社交行事の数々を紹介します。火山めぐりは、第四回大会が開かれた、エクアドルの火山の紹介です。

## アイスブレイカーパーティーが始まる

大会は、会議前日の夕方に行われる「アイスブレイカーパーティー」から始まります。「アイス」は「氷」、「ブレイカー」は「壊すもの」という意味で会議前の固い雰囲気や壊し、参加者同士が打ち解け合うのがねらいです。ウエルカム（歓迎）パーティーとも呼ばれています。

## 開会式、閉会式 公式社交行事

開会式では、普賢岳噴火災害に関する特別講演などが予定されています。式終了後は、



▶ 前回大会の開会式

◀ 島原大会が決まった瞬間



参加者による口頭発表やポスター発表などが行われ、五日間にわたる学術プログラムが始まります。

大会三日目の夜は「巡検」を終えた参加者を招いたパーティーを島原城などで開催する予定です。島原の歴史と文化、風情を参加者に堪能していただきたいと思っています。

最終日の閉会式では島原大会にちなんだ「平成新山アピール」（仮称）の宣言文を採択し次回開催予定地も発表されます。夜には、フェアウエル（お別れ）パーティーが開催され国際色豊かな大会の幕を閉じることとなります。

## 松島健博士と行く

# 世界の火山めぐり

## (六) エクアドルの活火山

第四回大会が開催されたのは、南米西岸にあるエクアドル（スペイン語で「赤道」の意）です。海岸部ではバナナの生産が盛んで、日本の店頭にもよく並んでいますね。しかし、内陸部には南米大陸を縦断するアンデス山脈が横たわり、その上には七十三個の火山があります。これらの火山は、東太平洋にある海嶺からわき出たプレート（ナスカプレート）が南米大陸にぶつかって沈み込むことでできています。プレートの西側（太平洋プレート）が日本の南岸で沈み込み、たくさん地震や火山噴火を起こしているのと同じです。



▶ グアアピチンチャ火山の噴火

ところで皆さんは学校で「安山岩」という石の名前を聞いたことがあるかと思います。英語では「Andesite」と言い、アンデスの石という意味です。これはアンデス山脈で多く産出するところから名付けられたもので、和名の「安」はアンデスの当て字です。実は日本の火山もほとんどが安山岩からできています。

首都のキト市もアンデスの火山に囲まれた盆地にあります。グアアピチンチャ火山は一九九九年に噴火し、その火山灰が都市機能を一時まひさせました。またコトパクス山（五、八九七メートル）は世界で最も標高の高い活火山で、山頂付近には万年雪と氷河があります。一八七七年の噴火ではこの雪が熱で急激に解けて、下流域で高さ三十メートルを超える大土石流が発生し、多くの人が亡くなりました。

（執筆：松島健九州大学地震火山観測センター助教授・理学博士）